



北海道

北海道環境白書 '23



<表紙写真>

ニセコ積丹小樽海岸国定公園 神仙沼

ニセコ積丹小樽海岸国定公園は、1958年（昭和33年）に北海道立自然公園条例の施行により道立自然公園となったのち、1963年（昭和38年）国定公園として指定され、令和5年（2023年）で指定後60周年を迎えました。

標高1,000m級の山々がそびえるニセコ連峰と雷電海岸、積丹半島から小樽に至る海岸を含む海陸にわたる公園で、ニセコアンヌプリ・チセヌプリ・目国内岳などのすぐれた山岳景観と、海蝕崖の連続する豪壮な海岸風景を特色としており、道内の公園で唯一、海中公園地区が指定されています。

また、共和町の神仙沼は、標高760mの地点にあり、アカエゾマツなどの原生林に囲まれ、四季に織りなす様々な風景から、数あるニセコの湖沼の中で最も美しいと言われています。

<裏表紙>

G7子ども行動宣言

令和5年（2023年）4月に札幌市で開催されたG7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合では、令和4年度（2022年度）に「北海道フロンティアキッズ育成事業」に参加した道内の小学校のうち5校が、大臣会合のテーマとなる脱炭素・環境保全等について、自らができることを「G7子ども行動宣言」として取りまとめました。

また、日本国政府主催レセプションで江差町立南が丘小学校の児童7人が5校の宣言文を発表するとともに、宣言書を西村康稔経済産業大臣、西村明宏環境大臣に手交しました。

環境白書についてのお問い合わせは、北海道環境生活部環境保全局環境政策課へご連絡ください。

T e l 011-231-4111（代表） 内線24-204

011-204-5187（直通）

F a x 011-232-1301

U R L <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ksk>

E-Mail kansei.kankyoushou@pref.hokkaido.lg.jp

環境白書の刊行に当たって



近年、気候変動による平均気温の上昇などの影響が世界的に顕在化する中、北海道においても、本年、観測史上最長の44日連続真夏日を記録し、熱中症リスクが増加するなど、地球温暖化は、私たちの生活に大きな影響を及ぼしています。

本年3月に公表された気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第6次評価報告書では、人間活動が地球温暖化を引き起こしてきたことには疑う余地がなく、19世紀末に比べ世界平均気温は1.1℃温暖化したことが報告されるなど、気候変動への対応は喫緊の課題となっています。

こうした中、道では、本年3月に「北海道地球温暖化防止対策条例」（通称「ゼロカーボン北海道推進条例」）を改正し、基本理念を明らかにするとともに、道の責務規定を追加したほか、事業者の取組や吸収源対策などの規定を拡充し、各分野の取組の強化を図りました。

また、4月に開催された「G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合」の関連行事において、「脱炭素社会の未来を拓く北海道・札幌宣言」を札幌市とともに発表するなど、環境と経済・社会が調和しながら成長を続ける「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組を進めています。

さらに、使い捨てを基本とする大量生産、大量消費、大量廃棄型の経済社会活動は、天然資源の枯渇、気候変動、生物多様性の損失など様々な環境問題と密接に関係しており、近年、持続可能な形で資源を利用する「循環経済」への移行を目指すことが世界の潮流となっています。

道では、3R（リデュース・リユース・リサイクル）に加え、リニューアブル（再生可能資源の利活用）の取組が推進されるよう、3Rを道民運動として定着させる取組をはじめ、リサイクル製品の製造や販路拡大に向けた支援、北海道認定リサイクル制度による利用拡大などに取り組んでいます。

加えて、近年、野生動物とのあつれきの増大が大きな問題となっており、特にヒグマに関しては、生息数の増加に加え、人間を恐れない問題個体が表れるなど、人身事故の増加が懸念されています。このため道では、ICTやAIなどの最先端技術を活用した出没可能性の分析を行うほか、ヒグマを人里に近寄らせない方策や、出会った場合の対処法などの普及啓発を強化しています。

また、本年4月には、道央・道東地区に「北海道動物愛護管理センター（愛称：アイニキタ／あいにくた）」を開設し、保健所などに一定期間収容された犬猫の飼養や譲渡、動物愛護に関する普及啓発を行うなど、人と動物が共生する社会の実現に向けて取り組んでいます。

本道の豊かで美しい自然環境を守り、持続可能な社会を実現するためには、一人ひとりが環境保全について自ら考え、行動し、取組の輪を広げていくことが重要です。

本道の環境の状況や道の施策などを取りまとめた本書が、皆様の環境保全に対する理解を深め、行動の一助になることを心から願っています。

令和5年（2023年）12月

北海道知事 鈴木 直道